

五四〇一 「形體」

五四〇二

*五四〇三—〇四

五四〇五

五四〇六

五四〇七

五四〇八

五四〇九

五四一〇

五四一一

五四一二

*五四一三

五四一四

五四一五

五四一六

五四一七—一八

五四一九—二〇

五四二一

五四二二

天地なる者は物なり。
物なる者は虚實の體、

正斜の形を以てして其の位に處す、

其の方を行く、故に

氣は動くうごと雖も、而も其の形は靜せいなり、

時は通つうずと雖も、而も其の位は立たつ、

位は形けいの靜せいを以て定さだまる、

形は位いの立りつを以て成なる、是こゝに於おて

形は位いに由よりて理りを布しく、

位いは理りに由よりて中ちゆうを定さだむ

形位けいゐは相あい成なると雖も、而も未いまだ虚實きよじつの體たいを得えざれば。

物ぶつは何なにを以もつてか立たたん。故ゆゑに

物ぶつは形けいを舍すてて存ぞんせず、然しかり而しこうして

形けいは物ぶつを除のぞきて成ならず、

物體ぶつたいは形けいに依よらずして立たつこと能あたわず。

中ちゆうは地ちを無む内に占しむ、而しかして其その外そとは垠かぎり無なし、故ゆゑに位いは立たちて圓えん成なる、

守しゅは中ちゆうを兩頭りやうとうに見みす、而しかして其その縫ほうは腹ふくを爲なす、故ゆゑに矩くは立たちて規きを成なす、此この故ゆゑに

位いは以もつて其その地ちを定さだむ、

形けいは以もつて其その體たいを成なす、

五四二三
五四二四
五四二五
五四二六
五四二七
五四二八
五四二九
五四三〇
五四三一
五四三二

大物なる者は。動氣實體なり。
 實體は位を得ざれば、則ち居ること能わず、
 動氣は方を得ざれば、則ち行く可からず、而して
 其の實體の立は。動氣の活を以てなり。是を以て
 持中に在ては、則ち噉喩に動く、
 轉中に在ては、則ち運轉に動く、故に
 位なる者は、體の立つ所なり、
 方なる者は、氣の向う所なり、
 體立ちて神其の中に活す、
 方定りて氣其の中に運す、